

感染症情報 10月31日～11月6日

府下小児科200医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1325例(堺市 44例)
②RSウイルス感染症	386例(堺市 25例)
③おたふくかぜ	346例(堺市 30例)
④溶連菌感染症	333例(堺市 20例)
⑤手足口病	118例(堺市 4例)

が報告された。

感染症報告数は前週より12.5%増の2,839件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、おたふくかぜ、溶連菌感染症、手足口病の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比31%増、堺市でも26%増であった。当科周囲でも比較のみられる。2位のRSウイルス感染症は府下で前週比11%減、堺市で39%減であった。おたふくかぜは府下・堺市とも横ばいであった。4位の溶連菌感染症は府下で5%増、堺市で18%増であった。

インフルエンザは府下で今回85例が報告され、前週の70%増となった。堺市では前週9例→今回8例であった。マイコプラズマ肺炎の報告数は府下では前週44例から今週28例の36%減で、堺市では前週5例であったのが、9例となっている。流行性角結膜炎(はやり目)は府下で前週30例から今回35例に再び増えている。

麻疹や風疹の報告はなかった。